

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671500340
法人名	医療法人 清樹会
事業所名	グループホーム 樹園
所在地	徳島県板野郡藍住町奥野字猪熊91-4 (電話) 088-692-1788
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 3月 7日

## 【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算 樹園① 5.3人, 樹園② 4.9人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費7,500円, その他実費
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	52 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・清樹会 清水内科
---------	-----------

徳島県 グループホーム樹園 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い畑の真ん中にグループホームはあり、隣の幼稚園からは可愛い声がいつも聞こえてくる。広い玄関を入ると利用者の笑い声が聞こえ、静かに音楽が流れていた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用案内文への運営理念の記載は、改善されていなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ミーティング時に、全職員が参加し、自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者代表、家族代表、地域包括支援センターの職員、民生委員、事業の知見者、事業所の職員等によって構成されている。討議内容は、感染症の予防や、夜間時の避難訓練、ボランティアの導入などについて話し合わせ、会議録は、職員に回覧されていた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置したり、家族会や運営推進会議の際に家族等の意向の把握に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校や隣の幼稚園の行事を見学したり、参加したりしている。また、散歩や買い物時に挨拶を交わすなどの交流を行っている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和顔愛語」を理念とし、地域全体で支えられるよう地域の人々に働きかけ、あたたかみのある生活が送れるよう独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時に理念を伝える等、全職員が理念を理解できるよう取り組んでいる。また、ミーティング時に職員間で話し合い、理念にそったケアの実践に向けた取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校や隣の幼稚園の行事を見学したり、参加したりしている。また、散歩や買い物時に挨拶を交わすなどの交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、結果をミーティング時に話し合い、全員で共有し課題の改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者代表、家族代表、地域包括支援センターの職員、民生委員、事業の知見者、事業所の職員等によって構成されている。討議内容は、感染症の予防や、夜間時の避難訓練、ボランティアの導入などについて話し合わせ、会議録は、職員に回覧されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の入退居状況の報告時等に行政担当窓口を訪問し、意見交換や、運営に関する相談を行う等、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や家族会の際、日頃の過ごし方や健康状態の報告を報告している。詳細に伝達し、家族の不安を取り除けるよう心がけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族会や運営推進会議の際に家族等の意向の把握に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職により職員の異動がある場合、認知症介護の経験者を配置したり、説明を行うことで、混乱がないようスムーズに交替ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や他のグループホームと交流が行われ、研修が重ねられている。しかし、研修テキストに基づき報告は行われているが、閲覧したことが分かるサインや印鑑が残されていなかった。また、年間の研修計画はなかった。	○	年間計画を立てる等、段階に応じた計画的な研修を受けられるような仕組み作りが期待される。また、研修内容を全員が共有できていることが分かるように、報告書等を作成し、サインや閲覧印を残すなどの工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと常時交流をもち、相互の活動方法、サービス内容について話し合い、質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、サービス内容をよく理解してもらうために見学してもらう等の取り組みを行っている。また、急な入居の場合は、家族や関係者にも宿泊してもらい、安心して場の雰囲気に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の意向をもとに、洗濯物たたみや食事の準備などと一緒にっており、一方的な介護ではなく、共に生活しているという関係づくりを心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係者からの聞き取りや、日々の関わりや会話の中から、思いや不安、喜びなどを把握し利用者の意向を詳しく知ることに努めている。また、意向の把握が困難な方は、表情や行動の中から思いを推察し、確認をしながら一人ひとりにあった暮らし方の支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意見・要望を取り入れている。また、理学療法士にアドバイスをもらうなど、必要な関係者と話し合いながら計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度のモニタリングの記録が残っている。しかし、見直し後のプランは見直し前のプランと同一のものであり、見直された内容が活かされていない。	○	見直し前後で状態の変化が少ない場合もあるが、それに即した見直しと計画作成に取り組むことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が図られ、ショートステイの受け入れもを行っている。また、家族との連携により、通院の送迎や買い物等、利用者の要望に応じた支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診を受けたり、緊急時にはすぐに対応ができるような体制づくりをする等、かかりつけ医との関係を築きながら健康に配慮した支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、家族や医師と相談できる場を設け、全員が方針を共有できるような体制が整えられている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排せつ時の誘導等は、さりげない言葉遣いや関わり方に注意しながら対応し尊厳を大切にしている。居室への出入りにもノックや入室許可の確認など、プライバシーを損ねないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事やレクリエーション等への参加については、体調や気持ちに配慮し、場面ごとに柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理、後片付け等、一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と共に楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制を整えており、利用者の希望に沿った対応ができています。状態に応じて併設事業所の特殊浴槽を利用することもある。しかし、入浴時間は、14時から16時の間に設定されている。また、入浴できずに清拭で対応した場合等の記録が明確でなかった。	○	自由な時間に入浴できるよう、職員配置を工夫する等の取り組みが期待される。また、清拭で対応した場合等、入浴状況が明確に記録されるような工夫も期待される。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食器洗い、調理等の役割を持ち、張り合いのある生活が持てるよう配慮されている。また、月に1回フラワーアレンジメントを行ったり、韓流ドラマを見たりと、生活歴を活かした支援や、楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブに行ったり、喫茶店でお茶を飲んだり、ウィンドウショッピングを楽しむなど、積極的に戸外へ出かけられるような支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵は施錠されていない。玄関への通路はスタッフルームを通り、職員が目配りできる構造となっており安全面に配慮されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練と、2ヶ月に1回の夜間の避難訓練を行っている。また、運営推進会議を通じて、避難訓練に参加してもらうなど、地域の人々の協力を得られるように働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取については併設事業所の栄養士の指導による献立に基づき、カロリーや水分量を管理しており、摂取量はチェック表により把握している。利用者の状態に応じてキザミ食やミキサー食で対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはテレビを設置しておらず、利用者同士が会話しやすい雰囲気が作られている。テレビがある部屋にはソファと畳にやぐらこたつが置かれ、一人ひとりが好みの場所で過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やタンスを持ち込んだり、家族の写真を飾ったり、レクリエーションで作った作品を机の上に置く等、一人ひとりが使い慣れた小物や好みのものを持ち込み、居心地のよい空間づくりをされている。		